

2 避難所巡回

市内の大規模避難所を巡回し、「外国語による地震情報センター」のちらしを掲示板に貼りながら、避難所対応職員等からの聞き取りや会場内巡回を通して外国出身住民の状況把握を行った。

なお、3月21日(月)からは、福島県のホームページにアップされた避難者リストから外国出身住民らしい名前がある避難所に電話して、状況把握を行った。

ちゅうごくご
ENGLISH と中国語の
じしんじょうほうていきょう
地震情報提供センター
Earthquake Information Center (English & Chinese)

<http://www.worldvillage.org/>
 検索 **福島県国際交流協会**

Fukushima International Association

☎ 024-521-7183 (I.A.D.国際課)
080-1851-4881
Mon.-Fri. (週一-五) 9:00~16:30
Interpreter might not be on site at times.

避難所に貼ったチラシ

月 日	避難所	職員からの聞き取り内容、及び巡回による状況把握
3月15日 (火)	福島競馬場	「当初中国語を話す人が2名いたが、現在は避難所を出た模様」
	福島市保健福祉センター	「外国人は家族と一緒に来ているようなので、現在のところ意思疎通の問題は起きていない。」
	福島県立福島高校	「浪江町や小高区からの住民が避難している。避難所入所者名簿を見ても日本名だと外国人がどうかかわからない。」
	福島県立橋高校	「外国人はいないようだ。」
	福島市立南向台小学校	「外国人はいないようだ。」
	福島市吉井田学習センター	「外国人はいないようだ。」
3月16日 (水)	福島県青少年会館	「当初は外国人が数名いたようだが、今はいない。」
	福島県立明成高校	「外国人はいないようだ。」
	福島県あづま総合運動公園	「外国人はいないようだ。」
	福島県立福島西高校	「名簿上、外国人はいないようだ。」
3月19日 (土)	福島県あづま総合運動公園	名簿上で、葛尾村居住で名前がカタカナの女性2名を確認。職員によると外国人と思われる人がいたとのことだが、それ以上の情報はなし。

3 震災復興版ジャイロ『がんばろう福島』の発行

(1) 発行の目的

外国出身住民や県に縁のある県外・海外の外国人に向けて、多言語で震災の関連情報を提供することにより、不要な不安を取り除き、また、国内、海外からの福島に対する風評を払拭するため、当協会の広報紙である「Gyro (ジャイロ)」の震災復興版を発行した。(平成24年度からは、ブログ版として現在も発信中)

(2) 発行の形式

ニュースレター

- ・仕様：A4判2ページ両面カラー刷り
- ・発行回数：平成23年5月～6月の月2回と11月の月1回 計5回
- ・発行部数：日本語(2,000部)、英語(1,000部)、中国語(1,000部)